



WORLD LOGGING CHAMPIONSHIP

Šentjernej, Slovenia / March 12-15, 2026

第 36 回 WLC スロベニア大会



主 催:ialc (International Association of Logging Championships)

開催地:スロベニア シェントイェルネイ

作 成:日本伐木チャンピオンシップ実行委員会

〔  全国森林組合連合会 〕

1. 大会名称

World Logging Championship 2026(WLC2026)



2. WLC メインスポンサー(3 社)



3. 開催日程

2026年3月12日～15日

12日：ialc 通常総会、開会式

13日：○今井選手、高山選手、松村選手、山岡選手、武藤選手
⇒伐倒競技

14日：○今井選手、高山選手、松村選手、山岡選手、武藤選手
⇒ソーチェン着脱競技、丸太合せ輪切り競技、接地丸太輪切り競技

○表彰式（4 競技）

15日：リレー競技、枝払い競技、閉会式・表彰式（リレー、枝払い、総合）

4. 開催場所

◇スロベニア シェントイエルネイ

- ※国名：スロベニア
- 首都：リュブリャナ
- 面積：約 2 万km²
- 人口：約 212 万人
- 言語：スロベニア語



5. 参加国

22 カ国

スロベニア、フランス、フィンランド、リトアニア、セルビア、ノルウェー、ドイツ、日本、ポーランド、ラトビア、オーストリア、スロバキア、イタリア、ハンガリー、イギリス、**ルーマニア**、**ボスニアヘルツェゴビナ**、エストニア、チェコ、オランダ、スイス、クロアチア

※開催国は A・B の 2 チームが参加（B チームはエキシビション）

※**赤字**は前回大会から新たに出場した国

6. 参加選手

103 名〔Pro 66 名、U24（24 歳以下） 20 名、Women 17 名〕

※エキシビション参加選手含む

※各国から Pro クラス 3 名、U24 クラス 1 名、Women クラス 1 名 参加可能

※前回大会の各クラスの優勝者はシードとして参加

7. 日本代表チーム

氏名	役割	所属
今井 陽樹	選手〔Pro クラス〕	合同会社ひのきや
高山 亮介	選手〔Pro クラス〕	有限会社矢守産業
松村 祐	選手〔Pro クラス〕	有限会社矢守産業
山岡 空	選手〔U24 クラス〕	有限会社矢守産業
武藤 唯	選手〔Women クラス〕	
荒川 考旦	チームリーダー	全国森林組合連合会
関口 和子	テクニカルリーダー	全国森林組合連合会

- チームリーダー : 総会出席、選手の行程管理、審判への意見具申を行う。
- テクニカルリーダー : 他国選手の競技並びに審判の判定等が適正かチェックする。

8. 競技結果

【個人総合】

Pro クラス (66名)


順位	氏名	国	得点
1	Jürgen Erlacher	オーストリア	1686
2	Robert Čuk	スロベニア	1679
3	Ole Harald L. Kveseth	ノルウェー	1675
:	:	:	:
16	今井 陽樹	日本	1623
44	高山 亮介	日本	1536
48	松村 祐	日本	1520
:	:	:	:

U24 クラス (20名)

順位	氏名	国	得点
1	Johannes Ertl	オーストリア	1622
2	Luis Kolb	ドイツ	1601
3	Per Håkon Greni Dystland	ノルウェー	1596
:	:	:	:
11	山岡 空	日本	1475
:	:	:	:

Woman クラス (17名)

順位	氏名	国	得点
1	武藤 唯	日本	1549
2	Carina Modl	オーストリア	1542
3	Lisa Panzenböck	オーストリア	1538
:	:	:	:

 : WLCにおける日本新記録

【伐倒競技 ～TREE FELLING～】



PRO クラス (66 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Øystein Koht-Norbye	ノルウェー	107	659
2	Philipp Amstutz	スイス	130	659
3	Robert Čuk	スロベニア	136	659
:	:	:	:	:
7	今井 陽樹	日本	150	652
15	高山 亮介	日本	149	648
57	松村 祐	日本	155	588
:	:	:	:	:

U24 クラス (20 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Luis Kolb	ドイツ	158	656
2	Florjan Felicijan	スロベニア	180	633
3	Johannes Ertl	オーストリア	163	631
:	:	:	:	:
6	山岡 空	日本	133	623
:	:	:	:	:

Women クラス (14 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Maša Kurent	スロベニア	170	633
2	武藤 唯	日本	172	626
3	Lisa Panzenböck	オーストリア	155	620
:	:	:	:	:

: WLCにおける日本新記録

【ソーチェン着脱競技 ～FITTING ANOTHER CHAIN～】



Pro クラス (66 名)


順位	氏名	国	タイム	得点
1	Martin Schraitle	ドイツ	8.02	142
2	高山 亮介	日本	8.21	140
3	David Gabor	ハンガリー	8.48	140
:	:	:	:	:
24	今井 陽樹	日本	11.46	128
34	松村 祐	日本	12.68	122
:	:	:	:	:

U24 クラス (20 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Luis Kolb	ドイツ	9.61	134
2	山岡 空	日本	10.08	132
3	Florjan Felicijan	スロベニア	10.45	132
:	:	:	:	:

Women クラス (17 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Lisa Panzenböck	オーストリア	10.69	130
2	Carina Modl	オーストリア	10.92	130
3	Maša Kurent	スロベニア	12.03	126
4	武藤 唯	日本	13.07	120
:	:	:	:	:

 : WLCにおける日本新記録

【丸太合わせ輪切り競技 ～BUCKING BY COMBINED CUTS～】



Pro クラス (66名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Ole Harald L. Kveseth	ノルウェー	22.87	204
2	Robert Čuk	スロベニア	24.99	202
3	Jürgen Erlacher	オーストリア	23.22	201
:	:	:	:	:
28	高山 亮介	日本	23.95	186
45	松村 祐	日本	24.25	176
48	今井 陽樹	日本	24.12	174
:	:	:	:	:

U24 クラス (20名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Per Håkon Greni Dystland	ノルウェー	28.48	186
2	山岡 空	日本	22.20	179
3	Maxime Bollotte	フランス	28.70	178
:	:	:	:	:

Women クラス (17名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Dragana Lužajić	スロバキア	32.70	189
2	武藤 唯	日本	26.84	186
3	Carina Mod	オーストリア	32.52	181
:	:	:	:	:

【接地丸太輪切り競技 ～PRECISION BUCKING～】



Pro クラス (66 名)


順位	氏名	国	タイム	得点
1	Thomas Schneider	ドイツ	21.92	251
2	Marko Nesković	スロバキア	20.73	248
3	Peeter Mitt	エストニア	20.03	247
:	:	:	:	:
16	今井 陽樹	日本	26.23	241
43	松村 祐	日本	28.90	232
63	高山 亮介	日本	23.20	164
:	:	:	:	:

U24 クラス (20 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Luis Kolb	ドイツ	21.87	243
2	Mario Recher	スイス	22.73	242
3	Ivan Cumbaj	クロアチア	30.05	239
:	:	:	:	:
17	山岡 空	日本	30.55	165
:	:	:	:	:

Women クラス (17 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	武藤 唯	日本	31.59	236
2	Austra Teteré	ラトビア	36.68	231
3	Zuzana Zajicová	チェコ	34.36	231
:	:	:	:	:

 : WLCにおける日本新記録

【枝払い競技 ～LIMBING～】



Pro クラス (66 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Marco Trabert	ドイツ	13.33	468
2	Jürgen Erlacher	オーストリア	14.8	462
3	Ole Harald L. Kveseth	ノルウェー	15.10	460
:	:	:	:	:
22	今井 陽樹	日本	17.95	428
35	松村 祐	日本	19.87	402
37	高山 亮介	日本	15.85	398
:	:	:	:	:

U24 クラス (20 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Johannes Ertl	オーストリア	18.02	448
2	Florjan Felicijan	スロベニア	22.00	432
3	Per Håkon Greni Dystland	ノルウェー	22.85	430
:	:	:	:	:
13	山岡 空	日本	26.28	376
:	:	:	:	:

Women クラス (17 名)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Julia Królik	ポーランド	29.77	402
2	Carina Modl	オーストリア	26.39	396
3	Lisa Panzenböck	オーストリア	27.54	390
:	:	:	:	:
5	武藤 唯	日本	24.22	384
:	:	:	:	:

チームリレー ～【RRLAY RACE】

Pro クラス+U24 クラス、Wom 混成 (27 チーム)

順位	氏名	国	タイム	得点
1	Martijn Meijer, Hilco Kragt, Harm Eigenraam, Arjan Polmann	オランダ	107.94	1272
2	Kamil Szarmach, Jakub Rzepa, Tomasz Bilski, Karol Laskowski	ポーランド	108.00	1272
3	Žiga Švigelj, Janez Meden, Robert Čuk, Florjan Felicijan	スロベニア	92.45	1268
:	:	:	:	:
11	今井 陽樹, 高山 亮介 松村 祐, 山岡 空	日本	112.00	1218
24	Janniina Hämmäläinen, Maša Kurent, 武藤 唯, Lisa Panzenböck	WOMAN3	127.00	1093
:	:	:	:	:

チーム総合順位

Pro クラス 3 名の合計点 (22 チーム)

順位	氏名	国	合計得点
1	Jürgen Erlacher, Michael Ramsbacher, Markus Buchebner	オーストリア	5002
2	Marco Trabert, Martin Schraitle, Thomas Schneider	ドイツ	4950
3	Žiga Švigelj, Janez Meden Robert Čuk	スロベニア	4871
:	:	:	:
12	今井 陽樹、高山 亮介、松村 祐	日本	4679
:	:	:	:

9. 大会レポート

○はじめに

日本林業界にとって、歴史的な 1 ページが刻まれた。

第 36 回世界伐木チャンピオンシップの Women クラスに出場した武藤選手が、アジア人初となる総合優勝に輝いた。さらに、日本チームは最多となる 7 個のメダルを獲得する快挙も達成した。

本稿では、こうした輝かしいリザルトだけでは伝えきれない、白熱した大会の様子をレポートする。

○開催国は、ヨーロッパが誇る「緑の国」

大会の開催国はスロベニア。国土面積は約 2 万 km²で、四国とほぼ同程度の広さを持ち、森林率は 60%を超える。中央ヨーロッパに位置し、アルプス山脈やカルスト台地、さらには地中海に面するなど、多様な地形に恵まれた自然豊かな国である。まさに、伐木技術を競う世界大会にふさわしい舞台といえる。

○世界へ挑む“木魂 JAPAN”

本大会に出場するのは、2025 年 10 月に開催された「第 4 回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取」(以下、日本大会)を勝ち抜いた 5 名である。

Pro クラス代表は、今井選手・高山選手・松村選手の 3 名。今井選手と高山選手はいずれも 3 度目の WLC 出場となる。今井選手は日本大会チャンピオンとして、圧倒的なパフォーマンスで数々の日本記録を更新。一方の高山選手は、2023 年の WLC エストニア大会において、U24 クラスの丸太合わせ輪切り競技で銀メダルを獲得した実力者だ。松村選手は今回が初出場ながら、日本大会では世界大会経験者とのデッドヒート制して代表の座をつかんだ。高いポテンシャルに期待がかかる。

U24 クラス代表は山岡選手。2 大会連続の出場となる。日本大会では 5 種目合計 1600 点超を記録して優勝し、Pro クラスにも引けを取らない実力を示した。前回の 2024 年オーストリア大会では 19 人中 11 位と悔しい結果に終わっただけに、雪辱を果たせるかに注目が集まる。

Women クラス代表は武藤選手。前回の WLC オーストリア大会の国内予選で彗星のごとく現れ、日本大会を制すると、その勢いのまま本大会で総合 3 位に入ったシンデレラガールである。日本大会ではさらに実力を伸ばし、レディースクラスの日本新記録を更新して優勝。前回大会では総合 3 位を含む 3 つのメダルを獲得しており、今大会でのさらなる飛躍に大きな期待が寄せられていた。

○大会 1 日目 -3 月 13 日 (金) -

WLC は日本大会と異なり予選はなく、一発勝負で 5 種目を行う。初日の日本選手は全員、伐倒競技に臨んだ。

一番手は今井選手。目標に定めたポールの真横へ迫る正確な伐倒で 652 点を記録

し、WLC における日本新記録を更新する素晴らしいスタートとなった。続く高山選手も 648 点と好記録をマーク。世界大会初出場の松村選手は 588 点、山岡選手は 623 点、武藤選手は 626 点を記録した。1 日目終了時点では、武藤選手が 2 位でメダル圏内に入り、今井選手も 4 位と上位にランクインした。

○大会 2 日目 -3 月 14 日 (土) -

2 日目は、ソーチェン着脱競技 (以下、着脱競技)、丸太合わせ輪切り競技 (以下、丸太合わせ競技)、接地丸太輪切り競技 (以下、接地競技) の 3 種目が行われた。

前日同様、先陣を切ったのは Pro クラスの今井選手。日本大会で着脱競技の日本新記録を更新していたが、タイマーボタンの設置箇所を誤りタイムロスが発生。悔いの残る結果となった。しかし、その後は気持ちを切り替え、接地競技で日本新となる 241 点を記録し、意地を見せた。

続いて高山選手の着脱競技。まるで機械のように正確な手さばきで「8.21 秒」をたたき出し、会場を沸かせた。日本新となる 140 点を記録し、Pro クラスで自身初のメダルを獲得。その勢いで臨んだ接地競技だったが、床を切っしまい大幅な減点となった。

松村選手は大きなミスなく競技をまとめ、接地競技では 230 点を超える高得点を記録。前日の伐倒競技では緊張から本来の力を発揮できなかったが、徐々に調子を上げていく様子が見えかけた。

U24 クラスの山岡選手は、着脱競技で「10.08 秒」の好記録をマークし 2 位に入った。続く丸太合わせ競技では 179 点でこちらも 2 位という見事な結果を収めた。しかし接地競技では、高山選手同様に床を切っしまい、大幅な減点につながった。

Women クラスの武藤選手は大きなミスがほとんどなく、着脱競技 4 位、丸太合わせ競技 2 位、接地競技 1 位と安定した成績を残した。2 位であった丸太合わせ競技では同クラスにおける従来の世界新記録を上回った。さらに伐倒競技でも 2 位に入り、着脱競技を除く 3 種目でメダルを獲得する素晴らしい結果となった。

そして 4 種目終了時点で、2 位に 17 点差をつけて首位をキープ。総合優勝という快挙にあと一步まで迫った。しかし、2 位と 3 位には強豪国オーストリアの選手が控えており、特に Carina 選手は前回大会の覇者。依然として予断を許さない状況が続いていた。

○大会 3 日目 -3 月 15 日 (日) -

最終日となる 3 日目は、リレー競技と枝払い競技が行われた。

リレー競技は国別対抗戦で Pro クラス 3 名と U24 クラス 1 名の計 4 名で構成されたチームと各国の Women クラスの選手で構成された混合チームの計 27 チームで争われる。縦横に設置された丸太を順番に輪切りし、次の走者へバトンタッチするルールで、赤いライン内で切らなければ減点、横切りの際に切り離れた円盤が落下しなければ加点となるユニークな競技である。スピードも求められ、約 8kg のチェンソーを手に全力疾走する姿は迫力十分だ。日本チームは 1218 点を記録し、日

本記録にはあと4点及ばなかったものの11位と健闘。個人種目が中心のWLCにおいて唯一のチーム戦ということもあり、会場は大いに盛り上がり、最終種目「枝払い競技」への期待がさらに高まった。

そして迎えた最終種目「枝払い競技」。決められたパターンで配置された30本の枝を払い落とす競技で、5mm以上の切り残しや深さ5mm以上の傷があれば、1か所ごとに20点の減点となる難易度の高い種目である。世界トップレベルの選手による滑らかなチェーンソーさばきは、まるで舞うようで、美しさすら感じさせる。まさに花形競技といえる。競技順はここまでの総合得点により決まり、松村選手、高山選手、山岡選手、今井選手、そして武藤選手の順で臨んだ。高山選手は15秒台という圧巻のスピードを見せたが、3か所のミスで大幅な減点。松村選手と山岡選手もそれぞれ2か所のミスが響き、得点を伸ばせなかった。その中で、17秒台ながらミスを1つに抑えた今井選手が着実に得点を積み上げる。

そして日本選手のトリを務めた武藤選手は、総合1位という重圧の中で2か所のミスがあり、この種目では5位となった。しかし、前回女王Carina選手の猛追を振り切り、見事総合優勝の栄冠に輝いた。

○大会総括

Proクラスでは、今井選手が総合16位、高山選手が総合44位、松村選手が総合48位となった。

今井選手はメダルこそ逃したものの、伐倒競技および接地丸太輪切り競技で日本新記録を更新するなど、抜群の安定感を見せた。

高山選手は、エストニア大会（2023年・U24クラス）以来となるメダルを獲得し、Proクラスにおける日本人初のメダリストとなった。欧州勢にも引けを取らないパワフルなチェーンソーさばきには、今後さらなる期待がかかる。

初出場の松村選手は、本来の力を発揮しきれず悔しい結果となったが、一部の競技ではその実力の片鱗を見せた。次回大会以降の巻き返しに期待が高まる。U24クラスに出場した山岡選手は総合11位。前回のオーストリア大会（2024年）と総合点・順位はいずれも同じ結果となったが、今大会ではメダルを2個獲得し、内容面では大きな成長を示した。次回以降はProクラスでの出場となるため、国内選考の激化も予想される。

Womenクラスの武藤選手は総合1位に輝き、日本初の世界女王となった。前回大会の3個を上回る4個のメダルを獲得し、総合1549点で自身の持つ同クラスの日本記録も更新。さらなる進化を遂げた技術を世界に示す結果となった。

○さいごに

大会を終えて、Womenクラスで総合1位、そして7個のメダルを獲得し、日本が強豪国として名乗りを上げた。特に武藤選手は世界女王として国内外から注目されるだろう。日本国内で林業の認知度が高まり、「カッコイイ林業」が若い世代に知れ渡れば林業界の活性化に繋がると考えられる。

大会の様子については、日本伐木チャンピオンシップ事務局のホームページで大会

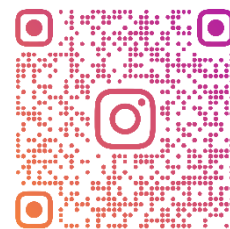
公式の動画 URL を掲載している。また、事務局公式 Instagram では大会の舞台裏を配信している。是非、“木魂 JAPAN”の活躍を見届けてほしい。

10. 次回の WLC について

○第 37 回 WLC は現在未定。

○今後の情報については下記ホームページを参照。

<http://www.ringyou-goods.net/jlc/>



JAPAN_LOGGING_CHAMPIONSHIP

11. ギャラリー

○大会前夜



○パレード・開会式



〇1 日目



02 日目





03 日目







